

三重の木を使おう、  
森を育てるために



木をよく  
知ろう

木と  
もっと  
親しまう

木を使おう

# 三重の林業



「木のうたプロジェクト」トーク&ライブの様子

(関連記事4ページ)

## 目次

|                   |                                                                                                             |        |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 話題を追って            | 第76回 全国植樹祭えひめ2026に参加してきました！<br>農林水産部 みどり共生推進課                                                               | 2      |
| 話題を追って            | 松阪市飯高地域にて「木のうたプロジェクト」がスタートしました！<br>松阪農林事務所 林業普及指導員 角屋 圭祐                                                    | 4      |
| 話題を追って            | 木と森のスペシャリスト<br>～アーボリスト®が拓く、三重の林業の新たな可能性～<br>合同会社ツリートライズ 山添 真                                                | 5      |
| 話題を追って            | 地元の木で川を下る 熊野川の三反帆(さんだんぼ)<br>～地域の自然と知恵が育んだ帆船を受け継ぐ「熊野川体感塾」～<br>熊野農林事務所 林業普及指導員 小林 直美                          | 6      |
| 頑張ってます！<br>話題を追って | 子どものときに志した林業の世界へ 鈴鹿森林組合 白須賀 悠希さん<br>設立5年目を迎えた(公社)みえ林業総合支援機構<br>～林業就業者の確保の取組について～<br>公益社団法人 みえ林業総合支援機構 中村 元久 | 7<br>8 |
| この人に聞く            | 第123回 西垣林業株式会社 三重事業所マルタピア<br>執行役員 上田 一元 さん<br>聞き手:伊賀農林事務所 林業普及指導員 二宮 健介                                     | 10     |
| 連載                | <三重大学>第37回<br>地域によって異なるニホンジカによる採食の植生への影響<br>～餌肥林業の地と霧島山～ 森林保全生態学教育研究分野 木佐貫 博光                               | 12     |
| 技術情報              | スギ大径材から製材された板材について<br>林業研究所 主幹研究員 中山 伸吾                                                                     | 14     |
| 投稿                | 三重の林業統計数字を読み解くシリーズ①<br>特用林産物生産の動向について ～きのご栽培は、林家から事業体へ！～<br>三重県林業技術普及協会 顧問 佐々木 太                            | 16     |
| 木材市況              | 木材市況(令和8年6月)                                                                                                | 18     |
| その他               | 三重の林業(令和8年5月号)を読んで<br>～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～                                                         | 18     |

2026年7月

No. 453

バックナンバーはこちら



## 第76回全国植樹祭えひめ2026に参加してきました！

農林水産部みどり共生推進課

令和8年5月17日（日）に愛媛県松山市の愛媛県総合運動公園で開催された「第76回全国植樹祭えひめ2026」に参加してきました。

### （全国植樹祭について）

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるために、（公社）国土緑化推進機構と都道府県の共催により開催する国土緑化運動の中心的行事で、昭和25年に山梨県甲府市で第1回大会が開催されて以降、都道府県持ち回りで毎年春に開催されています。

本県では、昭和55年に菰野町の三重県民の森等において「緑と太陽豊かな暮らし」を大会テーマに、県内外から約1万人の参加者を迎え、第31回大会が開催されています。



前回三重県大会でのお手植え（三重県民の森）

### （第76回全国植樹祭えひめ2026）

令和8年5月17日（日）、愛媛県松山市の愛媛県総合運動公園において「育てるけん 伊予の国から 緑の宝」を大会テーマに、「第76回全国植樹祭えひめ2026」が開催され、約4,500名が参加しました。当日は、雲一つない快晴となり、真夏のような日差しが降り注ぐなかでの開催となりました。今回大会では、式典会場となる愛媛県総合運動公園のほか、県内5か所にサテライト会場が設けられ、式典の生中継が行われるとともに、ワークショップ、各種ブースが出展されました。

### （おもてなし広場）

式典会場には、県内外からの招待者をもてなす

「おもてなし広場」が設けられ、市町や企業、各種団体など約60団体が、県産品や環境保全に向けた取組などをPRするブースを構え、多くの人で賑わっていました。当日は暑かったこともあり、「蛇口からみかんジュース」のコーナーは大人気で、ほぼ断水していました。



蛇口からみかんジュース（断水中！）

### （式典会場）

天皇皇后両陛下が式典をご観覧される場所である「お野立所」は、愛媛県産のスギ・ヒノキのCLTがふんだんに使用され、県民に広く愛される石鎚山の威風堂々とした姿を取り入れてデザインされていました。

また、大阪・関西万博のシンボル「大屋根リング」の屋根材に使用されたCLT（約8割が愛媛県産）が、天皇皇后両陛下が歩かれる歩道や出演者が登壇するアトラクションステージなどに再利用されていました。



お野立所

## (記念式典)

天皇皇后両陛下がご到着されると、記念式典が始まり、三旗掲揚、国家独唱が行われるとともに、主催者である(公社)国土緑化推進機構理事長、愛媛県知事の挨拶が行われました。天皇陛下からは、「人々が森林への愛情を育み大切に守り育て、健全な森づくりに向けた活動の輪が愛媛の地から全国、未来へと大きく広がっていくことを願う。」とのお言葉を賜りました。

お手植えは、天皇陛下は、無花粉スギ・クスノキ・クヌギ、皇后陛下は、少花粉ヒノキ、タチバナ、トキワバイカツツジを担われ、その後、天皇陛下は、クロマツ・ツブラジイ、皇后陛下はヤブツバキ・イロハモミジをお手播きになりました。



天皇皇后両陛下によるお手植え

## (次代を担う世代の活躍)

式典では、高校生による統制のとれた進行が行われるとともに、音楽(合唱・吹奏楽)、ダンスなど表現豊かなパフォーマンスが披露されました。

また、大臣への苗木の贈呈や天皇皇后両陛下によるお手植えなどの介添え役として、愛媛県内7つの「緑の少年団」の子どもたちが大活躍していました。



緑の少年団の活躍

## (ご当地ならではのおもてなし・演出)

昼食には、愛媛県の郷土料理「鯛めし」をはじめ、

特産品を彩りよく組み合わせた「おもてなし弁当」がふるまわれました。

また、式典では、愛媛県にゆかりのある武内陶子さん(総合司会)、草薨剛さん(ストーリーテラー)、石丸幹二さん(国家独唱)が出演するとともに、伝統芸能、高校生による書道パフォーマンス(愛媛県発祥)など、ご当地ならではの演出で会場を盛り上げていました。



高校生による書道パフォーマンス

## (森林資源の循環利用)

昭和41年の前回大会でスギ・ヒノキの植樹が行われた久谷ふれあい林(松山市)では、今回大会にあわせ伐採が行われ、製材された木材が式典会場における招待者用ベンチやプランターカバーに活用されていました。また、久谷ふれあい林の伐採跡地は、今回大会において植樹会場になっており、「伐って、使って、植えて、育てる」という「森林資源の循環利用」の取組が体现されていました。



式典開始前の会場(手前が招待者用ベンチ)

## (令和13年全国植樹祭の本県招致に向けて)

本県では、令和13年に開催される全国植樹祭の招致を予定しています。このたび「全国植樹祭えひめ2026」に参加させていただき、本県における招致にあたっての課題点などを確認することができました。

みどり共生推進課では、このたびの貴重な経験を生かしながら招致に向けた準備を着実に進めるとともに、県民の皆さんが主体となった「三重の森づくり運動」のさらなる展開を通じて、全国植樹祭招致に向けた気運醸成を図ってまいります。

# 松阪市飯高地域にて「木のうたプロジェクト」がスタートしました！

松阪農林事務所 林業普及指導員 角屋 圭祐

令和8年4月25日（土）、松阪市飯高町の宮前まちづくり会館にて、「木のうたプロジェクト」の始まりを地域の方々と共有するキックオフイベント「ひびけ！木のうた あつまれ！森のピクニック」（主催：いいたか「木のうたプロジェクト」運営委員会）が開催されました。

当日は、展示やトーク&ライブ、木にふれる体験イベント等が行われ、80名を超える方が来場されました。

### ◆はじめに

「木のうた」は、2019年に松阪市立宮前小学校で、同校の卒業生である堀内楓子さん（叶林業合名会社）・山崎くるみさん（シンガーソングライター）と、子どもたちとの森林散策や森林学習等の活動をきっかけに生まれ、その後6年間にわたって同校で大切に歌い継がれてきた歌です。

この「木のうた」を、地域の方々、子どもたちとともに、音楽・映像・写真・ことば・アートなど、さまざまな形で残し、多くの人へ届け、ひいては、林業振興や森林文化の普及、地域の活性化等につなげていきたいということで、「木のうたプロジェクト」がスタートしました。

### ◆イベントの概要

当日は、枝や落ち葉、香りのする葉っぱ等を使って森を感じられるよう装飾された会場において、地域の自然や「木のうた」の歩みに関する展示、堀内さん・山崎さんのお二人によるトーク&ライブ、木に触れる体験イベント等が行われ、展示に見入る来場者の方の姿や、木の棒にふれたり、木琴で音を奏でたり、木を磨いてキーホルダーを作ったりと、大人も子どもも木にふれる体験を楽しむ姿が見られました。

午前・午後の2回行われたトーク&ライブでは、「木のうた」がどのように生まれたのか、そしてこの歌をこれからどのように未来へ繋いでいくのかについて、歌とトークを交えながら紹介がありました。堀内さん、山崎さんのお二人と来場者の皆さんと一緒に「木のうた」を歌う場面もあり、会

場全体があたたかな雰囲気にもまれるなど、歌、展示、木にふれる体験を通して、子どもから大人までが地域の自然や暮らしに思いを寄せ、世代を超えた交流や地域内外のつながりを感じる一日となりました。



「木のうた」に関する展示に見入る来場者



トーク&ライブの様子

### ◆今後について

「地域」の力や「地域」のつながりの大切さが強く感じられる中、「木のうたプロジェクト」では、歌の録音、映像作品、記録誌の制作などを通して、ふるさとへの思いとともに、地域の自然や暮らしのすばらしさを積極的に発信していきたいとのことであり、今後、ますます活動の発展が期待されます。

「三重の林業」読者の皆様におかれましても、「木のうたプロジェクト」の今後の活動をぜひ応援いただきますようお願いいたします。



プロジェクト  
の最新情報は  
こちらから

## 木と森のスペシャリスト ～アーボリスト®が拓く、三重の林業の新たな可能性～

合同会社ツリートライズ 山添 真

～三重の森を未来へつなぐ新星～  
「アーボリスト®」がもたらす林業のイノベーションと安全の最適解

### (アーボリスト®とは)

—空高き樹上を舞台にするプロフェッショナル—

近年、日本の林業界でも注目を集めている「アーボリスト®」という言葉をご存じでしょうか。

一言でいえば「樹木 (Arbor) の生態を熟知し、適切な管理やケアを行うスペシャリストのことです。

従来の林業が「木を伐採して資材として活用すること」ならば、アーボリスト®は「木と人間が安全に共生するために、樹木の一生に寄り添うこと」に重きを置いています。

高度なクライミング技術(ロープワーク)を駆使し、大型重機が進入できないような急斜面や挟地、あるいは電線や民家に隣接した場所にある巨木・高木の頂上近くまで安全に登りつめ、自由自在に作業を行う点にあります。

アメリカに本部を置く国際樹芸協会 (ISA) などが認定するこの資格は、高度な科学知識と、極めて洗練された身体的スキルの両方を要求される。まさに「樹木の主治医であり、空を駆ける職人」なのです。

### (アーボリスト®の重要性と役割)

では、このアーボリスト®の技術がなぜ今樹木業界にとって重要なのでしょうか。その理由は主に3つあります。

#### ① 災害に強い森林づくりと「危険木」の管理

三重県は台風の通り道になることが多く、年間を通じて雨量が多い地域です。そのため、民家や道路、送電線に寄りかかるようにして生えている「危険木」や腐朽で立ち枯れた巨木の処理は、地域住民の命を守るため、急務となっています。重機が入らない場所でも、アーボリスト®はロープワークによって木を上部に安全に少しずつ解体・伐採することが出来ます。これにより、周囲の建物やインフラを傷つけることなく的確にリスク排除できます。

#### ② 伝統的な美林の保全と特殊伐採

尾鷲ヒノキをはじめとする三重の美林は、急峻な地形に育まれています。急斜面での作業は通常の林業架線や重機だけでは対応しきれないケースも多く、アーボリスト®の持つロープ技術は、こうした厳しい地形でのピンポイントな銘木・巨木のメンテナンスや種子採取 (母樹からの採取) に絶大な威力を発揮します。

#### ③ 環境調和型のインフラ整備

近年、伊勢神宮をはじめとする歴史的建造物の周辺や、熊野古道などの世界遺産周辺の景観維持が重要視されています。観光資源であり神聖な場所でもあるこれらの森では、周囲の生態系を壊すような大規模な皆伐や重機の投入は許されません。樹木を一本単位で管理し、最小限のインパクトで環境を整えるアーボリスト®の思想は「自然と文化の共生」に完璧に合致するものです。

### ～樹上プロフェッショナルが集う日本大会～

#### Japan Tree Climbing Championship (JTCC)

技術のスピード・安全性を重視した大会が5月末に度会町で開催され、全国から選手15名・スタッフ60名が集まり、5種目競技 (ワーククライム、エアリアルレスキュー、スローライン、アセントイベント、スピードクライム) を行い、5人の選手が決勝大会に進みチャンピオンが決まりました。チャンピオンは10月にアメリカで開催される世界大会に出場する権利が与えられます。世界各地で大会が行われ、技術の安全性が進化し続けています。



2026日本チャンピオン 河内孝介選手 (岡山県)

# 地元の木で川を下る 熊野川の三反帆（さんだんぼ） ～地域の自然と知恵が育んだ帆船を受け継ぐ「熊野川体感塾」～

熊野農林事務所 林業普及指導員 小林 直美

三反帆は、地元産材を生かし、熊野川流域の森林や林業、歴史の中ではぐくまれてきた地域ならではの川舟です。その魅力と、伝統文化の継承に力を尽くす人々の姿を紹介します。



熊野川をゆく三反帆

## ○木と川が育んだ文化

熊野川流域は、古くから「木の国」と呼ばれ、良質な木材に恵まれた地域です。奈良時代には、熊野の舟づくりの技術が高く評価されていたことも伝えられています。江戸時代から昭和初期にかけては、木材や石炭、木炭、和紙などが熊野川を利用して河口の新宮へ運ばれ、各地へ出荷されていました。

## ○熊野川の帆船、三反帆

三反帆は、熊野川の自然と人の知恵が生み出した、この地域ならではの川舟です。瀬が浅く急流の多い熊野川では、川の流れだけでなく、時間帯によって変わる風向きも舟を進める力でした。早朝には上流から海へ向かって風が吹き、10時過ぎには海から川へ向かう風に変わります。三反帆は、その名のとおり3枚の帆を張り、こうした自然の力を受けながら川を進みます。

三反帆には、スギ、ヒノキ、ケヤキ、カシの4種類の木材が使われています。木はすべて熊野川流域の森林から、熊野川流域唯一の舟大工である谷上さんが1本1本見極めて伐り出します。舟全体の約8割を占めるスギには、長さ9m以上、末口48cm以上の大径木が必要です。舟縁や梁にはヒノキ、舟底を守る補強材にはカシ、舟首にはケヤキが使われるなど、

木材は部位ごとに使い分けられています。木の性質を見極めて加工し、熱を加えて曲げることで、川の流れに適した流線形の舟体が形づくられます。舟を良い状態で保つには、乾燥や舟底の手入れなど、細やかな維持管理も欠かせません。

## ○三反帆を今に伝える「熊野川体感塾」

昭和30年代頃、交通の主役が川から陸へ移ると、三反帆は使われなくなりました。しかし、世界遺産登録をきっかけに、「熊野川体感塾」が発足し、三反帆による川舟乗船ツアーを通じて文化を受け継ぐ活動が続けられています。

川舟乗船ツアーでは、風を巧みに捉えて舟を操る船頭の技や、ミサゴやカモシカなどの野生生物との出会い、柱状節理が美しい畳石、世界遺産の御船島、熊野の山々の景観を楽しむことができます。近年は外国人観光客の利用も増え、三反帆文化の魅力が国内外に広がっています。



柱状節理の美しい「畳石」

## ○復活した三反帆文化を未来へ紡ぐ

熊野川体感塾では、川舟文化を未来へつなぐため、三反帆の継承に取り組んでいます。復活したこの文化を後世に残すべく、新たな屋形舟の整備にも挑戦されています。現在、川下りをはじめとする体験が楽しめますが、鮎釣りなど新しい楽しみ方も検討されており、熊野川ならではの魅力を伝える取組として、今後の広がりが期待されます。

## ○問い合わせ先

熊野川体感塾 (0735-21-0314)

<https://www.za.ztv.ne.jp/w58yd3jb/>



## 子どものときに志した林業の世界へ

鈴鹿森林組合 白須賀 悠希さん

今回は、令和8年3月から鈴鹿森林組合に勤務されている白須賀 悠希（しらすか ゆうき）さんに、林業を志したきっかけや現在の業務、今後の目標などについてお話を伺いました。



白須賀 悠希さん

### ■林業を志したきっかけ

林業を志すきっかけとなったのは、小学校6年生の時に観た映画『忍びの国』です。伊賀を舞台に描かれる物語に強く惹かれ、伊賀市出身の私は、映画に登場する城跡を巡るようになりました。

城跡を巡るうちに、そこに広がる森林の姿に徐々に疑問を持つようになりました。城跡の多くは森の中にありますが、そこで目にした森林は、木々が鬱蒼と生い茂り、昼間でも薄暗く、手入れが行き届いていないものでした。「なぜこんな状況になっているのだろう」「どうすればこの森を健全に保てるのだろう」と疑問を抱き、両親とともに調べた結果、森林を健全に管理する「林業」という仕事に出会いました。そして、中学校の時には、この森林を管理していくことが自分の進むべき道だと決意しました。

その後、三重県立昴学園高校で植林や木材加工といった林業の基礎を学びました。座学だけでなく、実際に山に入って植林作業を体験したり、木材加工の技術を習得したりと、実践的な学びを通じて、林業の魅力と奥深さに触れることができました。高校卒業後は京都府立林業大学校へ進学し、さらに専門的な知識と技術を深めました。

林業大学校では、林業の作業に必要な資格を一

通り取得したほか、林業事業体でのインターンシップ等を通じて、現場の空気や作業者の方々の技術を間近で感じる貴重な実務経験も積むことができました。製材工場の見学など、多岐にわたる学びの機会を得ることで、林業への理解と視野を大きく広げることができたと感じています。共に学んだ同級生たちは、今も連絡を取り合う大切な仲間です。

### ■現在の業務

森林組合に入組後は、植林、間伐、道路沿いの草刈り等の山林管理の業務に携わっています。手入れが行き届かなくなった山林を整備し、未来へと繋ぐ大切な役割を担っていると実感しています。林業大学校での学びやインターンシップでの実務経験が活かされており、入組後の業務に大きな戸惑いはありませんでした。また、幼い頃からサッカーや水泳など様々なスポーツに取り組んできたおかげで、体力や忍耐力が必要な林業の仕事も、不安なくこなせています。



先輩の指導のもと伐倒作業を行う白須賀さん

### ■今後の抱負

今後は、自分の目の届く森林1つ1つを適正に管理できるよう、安全を最優先しつつ効率的な作業を行い、自身のさらなるスキルアップに励んでいきたいと考えています。自分の技術を客観的に認めてもらうため、林業技能検定の取得も目標の一つとしています。

また、昨年取得した狩猟免許（わな）を活かし、深刻化する獣害被害の軽減にも積極的に取り組むことで、健全な森林づくりに貢献していきたいと考えています。

## 設立5年目を迎えた(公社)みえ林業総合支援機構 ～林業就業者の確保の取組について～

公益社団法人 みえ林業総合支援機構 中村 元久

(公社)みえ林業総合支援機構(以下、当機構)は、林業就業者の確保、人材の育成、林業事業体の支援などを目的に、公益社団法人として設立され、5年目を迎えました。現在までの活動状況を紹介します。

### 1. 林業労働力確保支援センターとしての役割

当機構は、公益法人の設立当初に、三重県から林業労働力確保支援センター(以下、労確センター)の指定を受け、林業就業者の確保や人材育成などの活動に取組み、労確センターとしての役割を担ってきました。

労確センターは、「林業労働力の確保の促進に関する法律」において、都道府県知事が、都道府県ごとに1機関に限り指定できること、役割として、就業希望者への相談対応、就業希望者・従事者に対する研修の実施、林業事業体に対する支援などが定められています。

各都道府県の労確センターを会員とする「全国林業労働力確保支援センター協議会」では、毎年ブロック単位での会議が開催されています。当機構は、昨年度までの2年間、近畿ブロック(2府6県で構成)の幹事県として、ブロック会議を開催し、労確センターの組織運営、担い手育成などについて、意見交換を行いました。昨年度の会議では、共通の課題である「新規就業者の確保」について議論を深め、近畿ブロック労確センターが連携した「林業就業相談イベント」などの開催に向け、検討を進めることになりました。



近畿ブロック労確センター会議の様子

当機構では、労確センターとしての取組の概要を「三重県林業労働力確保支援センターだより」として、毎年発行しています。ご興味があれば、当機構HP(<https://miekikou.jp/>)をご覧ください。



### 2. 「無料職業紹介所」としての役割

令和5年9月に厚生労働大臣から許可を受け、事務所内に「無料職業紹介所」を開設し、林業を対象とした無料職業紹介事業を実施しています。無料職業紹介は、職業安定法に定められた制度です。求人者と就職希望者との間に立って、雇用関係成立のあっせんを無料で行います。当機構は、林業に特化した無料職業紹介の許可を得ていますので、「林業版ハローワーク」と言えるかもしれません。

令和8年5月末現在、県内の51認定林業事業体のうち、22事業体から24件の求人依頼があり、求人票を当機構HPに掲載しています。求人票は、雇用条件の変更や新たな求人の依頼などに応じて、その都度更新し、最新情報を閲覧できるようにしています。

就職希望者については、ホームページの求人票などを閲覧し、問合せのあった人のほか、東京、大阪、名古屋などで開催される就職や移住の相談会などで、当機構ブースに訪問いただいた人を対象として、県内林業事業体への就職に向けた相談対応を行っています。これらの相談者のうち、希望者には県内事業体の職場見学の調整や希望条件にあった事業体とのマッチングなどのサポートを行っています。当機構の相談会等への参加は年10回程度で、事務所への来訪者とあわせて、毎年の相談対応者数は80名前後です。このうちの毎年5名前後が県内事業体へ就職されています。

今後も、県内の林業や事業体の状況などを丁寧に説明し、働いてよかったと言っていただけのことを心掛けながら、業務に取り組んでいきたいと考えています。



就業相談会（大阪）の様子

### 3.「林業で働くこと」を知っていただくために

林業就業希望者への相談対応から就職までの道のりは、必ずしも簡単ではありません。当機構が対応する相談者の大部分が転職となるため、新たな職業への決断に至るまでに時間を要する人が多く、当機構職員が相談対応を始めてから3年間フォローして就職に結びついたケースもあります。一方で、林業に就職したものの、期待と現実のギャップで、「こんなはずではなかった」と1年未満で辞めてしまう人もいます。

このため、相談者には、林業の実際の仕事を見学し、ある程度イメージを持っていただくため、見学受入れ可能な林業事業体とのマッチングを行っています。

また、林業を「知りたい・体験したい人」や「林業への就業を考えている人」を対象として、「林業体験ツアー（半日コース）」、「林業就業支援研修（4日間コース）」を実施し、林業の基礎知識を学ぶ講義や簡単な林業作業の体験などにより、少しでも、林業で働くことを知っていただくようにしています。



林業就業支援研修（植林体験）

### 4.「林業で働く人」を知っていただくために

林業で実際にどのような人が働いているのかを知っていただくことは、林業への就職を考える人にとって、判断材料の一つになると思います。

そこで、県内の林業事業体で働く人を毎年3名ずつインタビューし、現在12名の記事をホームページに掲載しています。

林業で働こうと思ったきっかけ、働いてみた感想、現在の仕事のやりがいなど、12名の人が、それぞれの思いを語っていただいている、様々な林業人生を垣間見ることができる内容となっています。少しでも林業を身近に感じていただけたらと願っています。



当機構ホームページより

### 5. おわりに

本稿では、当機構の活動のうち、「林業就業者の確保」の取組を中心に報告いたしました。本年度も、ご紹介した研修などを実施する計画となっています。各種イベント情報、活動状況など、当機構のホームページなどに掲載していきますので、ご興味がおございましたら下記にアクセスをお願いします。

ホームページ



Facebook



Instagram



## 第123回 西垣林業株式会社 三重事業所マルタピア 執行役員 上田 一元 さん

聞き手：伊賀農林事務所 林業普及指導員 二宮 健介

今回お話を伺ったのは、西垣林業株式会社 執行役員の上田一元さんです。

上田さんが担当する伊賀市の原木市場「マルタピア」は、令和3年9月に同社へ事業が引き継がれました。事業譲渡前の年間取扱量が約1万2千m<sup>3</sup>であったのに対し、譲渡後の令和4年には年間約3万m<sup>3</sup>、令和7年には約7万m<sup>3</sup>へと取扱量を着実に伸ばしています。これらの取り組みを進めてきた上田さんに事業の背景や目指す市場の姿について伺いました。

**Q. これまでのご経歴と、マルタピアを担当されることになった経緯についてお聞かせください。**

**A.** 奈良県吉野郡川上村出身で、実家が山守と自伐林家を営んでいました。小さい頃から木に囲まれて育ったので、林業の道に進んだのは自然なことでした。平成17年に西垣林業(株)に入社し、製材部門への配属となり7年間経験を積み、その後、愛知県・小牧事業所で2年、奈良県・桜井本社で7年の原木市場での勤務を経て、令和3年から三重事業所マルタピアに配属されることになりました。



上田一元さん

**Q. 上田さんが着任された令和3年は、西垣林業に事業が引き継がれた大きな節目の年でした。当時のマルタピアや、この地域の林業の状況は、どのように映りましたか？**

**A.** まず感じたのは、伊賀地域の森林資源が持つポテンシャルの高さです。地形は比較的緩やかで、枝打ちなど手入れの行き届いた良質な木が本当に多い。しかし、その一方で伐採が思うように進んでおらず、市場に材が集まってこない、という大きな課題がありました。これではもったいないと強く感じましたね。

**Q. そのような状況で、どのように方針を立て、何から着手されたのでしょうか？**

**A.** まず目指したのは、出荷主さんや買主さんにとって『あてになる市場だ』と思っていただける、そんな信頼される存在になることです。そして、その信頼の基盤を築くために最も重要な目標として掲げたのが、市場の根幹である『材の集荷量を増やす』ことでした。集荷量が確保できれば、買い手も集まり、市場は自然と活性化していきます。まずは市場にたくさんの材を集めることから始めようと思いました。

**Q. 『材の集荷量を増やす』という目標を達成するために、具体的にどのようなことから始められたのでしょうか？**

**A.** 伊賀地域は比較的小規模な林家さんが多く、伐採後の材をご自身で仕分けるのが難しい、というお話をよく伺いました。そこで私たちは、『市場に持ってきてさえ頂ければ、仕分けから販売まで、すべて我々が一手に引き受けます』というご提案をしました。

これが私たちの最大の強みですが、通常なら市場での販売はA材・B材が一般的です。他市場では受入れていないようなC材・D材といった材も、マルタピア自体がチップ加工を行っているため、バイオマス発電用チップとしてしっかり価値を見出すことが出来ます。A・B材の市売り販売、C・D材のバイオマス用材としての有効活用、どんな木も、マルタピアに持ってくれば必ずお金になる。この安心感が、地域の出荷主の方々が材を出しやすい環境に繋がり、集荷の大きな土台となってくれました。



バイオマス発電用チップ加工機

**Q. 県外からも集荷しているとのことですが、どのようにアプローチされたのでしょうか？**

**A.** 現在では取扱量の6割を三重県産材が占め、残りの4割を主に滋賀県、奈良県、京都府、福井県、岐阜県といった近隣県から集荷しています。

そのアプローチとしては、過去にお付き合いのあった事業者さんや近隣県の森林組合などへ、とにかく直接足を運びました。そして、それぞれの地域が抱える課題を丁寧に聞き取り、『それなら西垣林業がお手伝いできます』と、我々にできる解決策を提案していく。その地道な活動の繰り返しです。

結局のところ、私たちの仕事は人と人との関係構築が大事だと考えています。もちろん価格も重要ですが、この業界では『昔世話になったから』といった、これまで築いてきた信頼関係で取引を決めてくださる方も少なくありません。思いは人それぞれで、時には提案を受け入れていただけないこともあります。それでも、私たちを信じてくださる方には、精一杯の誠意でお応えする。その姿勢が何よりも大切だと思っています。

そして、その提案を支えているのが、森林整備から製材、そして原木市場まで、いわば川上から川下までを一貫して手がける西垣林業の総合力です。この幅広い事業領域があるからこそ、お客様一人ひとりの状況に合わせたご提案が可能となっています。この提案力と、地道な信頼関係の構築。その両輪で、少しずつお取引先を増やしていくことができました。



市売りの様子

**Q. これまでの取組のお話は、「人間関係」を大切にされている印象を受けましたが、この仕事で特に大切にされていることは何でしょうか？**

**A.** まさにその通りで、この原木市場の仕事は、私一人では絶対に何もできない仕事なんです。材を持ってきてくださる出荷主さんがいて、それを買ってくださる買主さんがいる。その方々がいて初めて、この市場は成り立っています。

だからこそ、次にこの市場を担う若い人たちにも、その想いを継承していきたいですね。私が60歳になった時、今の新入社員が中堅となって会社の理念を継承してくれている。そして、彼らが生き生きと仕事をしている姿を通じて、林業はまだ未来が明るいじゃないかと、他の業界からも見てもらえるようにしたい。そう見てもらえるように私自身取り組まないといけないなと考えています。



市売りの様子

**Q. 最後に、今後の目標、そしてこの記事を通じて伝えたいメッセージをお願いします。**

**A.** 私たちの最大の役割は、林業における川上と川下を繋ぐコーディネート役になることだと自負しています。

なぜなら、弊社自身が製材工場も稼働させているからです。つまり、私たち自身が川下の当事者でもあるため、他の製材所さんが今どんな情報を求めているかを肌で感じ、理解することができます。そのリアルな情報を、今度は川上にいる素材生産者の方々へ正確にフィードバックすることができる。これこそが我々のコーディネート役としての大きな強みです。

この強みを活かして、出荷主さんと買主さんをしっかりとつなぎ、山元へきちんと利益を還元していく。そして、地域のために汗を流せば、必ず自分たちに返ってくる。そう信じています。

最終的に、この地域の方々から、マルタピアがあってよかったと、心からそう言ってもらえる原木市場を目指していきたいです。



## &lt;三重大学&gt;第37回

地域によって異なるニホンジカによる採食の植生への影響  
～飢肥林業の地と霧島山～

森林保全生態学教育研究分野 木佐貫 博光

苗を高密度植栽する吉野林業とは対極にあるといえる宮崎県の飢肥林業。今回、飢肥林業、そしてその山域と霧島山における植生へのシカによる採食の影響について紹介します。

## はじめに

学生の頃の私は林床植生や実生定着を研究の対象にしていたのですが、2000年の三重大学赴任後、三重県でのそれらの研究意欲はなかなか高まりませんでした。その理由は、既にニホンジカの頭数が多くなっていたことにより、植生が衰退し始めていたからです。このため、演習林での森林動態や大台ヶ原でのトウヒやササの研究を続けることにしました（本紙21年1月号、23年9月号）。今年のGWに実家の宮崎県に帰省したのを機会に、飢肥林業の地と霧島山とを訪問し、そこでのシカの採食による植生への影響を観察してきたので報告します。

実家は、都城盆地の東側で、都城市と唯一合併しなかった三股町にあります。山あり川ありの景観は、一志町に似ていると感じます。西には霧島山の高千穂峰がそびえ立ち、南には桜島やブナの分布南限である高隅山を遠くに望むことができます。東に山頂だけが望める町の最高峰である鰐塚山（わにつかやま、標高1118m）は、宮崎市、日南市との境界です。南那珂山地に属するこの鰐塚山の南東斜面に、飢肥林業の一端を知ることができる保護林があります。

## 飢肥林業の地と鰐塚山の植生

飢肥林業は400年の歴史を有し、最も古い人工林のひとつが三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林です。この保護林は、明治11年に造林され、ほぼ150年生です。江戸時代には狩り場として利用されていたススキ原に、スギ造林木から採穂した挿し穂を、地面に直挿ししてできた人工林だといわれています。しかも、繁茂していたススキを踏みつけただけで地拵えはしなかったようです。1haあたり1,500本程度が直挿しされ、後に3～4回の補植が行われとされています。2014年度、

この保護林は、木材輸送のために開削された「堀川運河」などとともに、林業遺産「飢肥林業を代表する弁甲材生産の歴史」に登録されました。



写真1. 三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林  
枝の太いスギ大径木がみられる

樹高30mを超える人工林ですが、もともと低密度の植栽であるため、低い位置に生枝が残っている大径木がみられるのも特徴です（写真1）。下層では、樹高10mを超える照葉樹が生い茂ります。照葉樹の樹種は多様ですが、本数では長い葉が特徴のバリバリノキが最も多くみられ、樹皮に特徴のあるバクチノキ、カゴノキが目立ちます。他にもユズリハ、スダジイ、タブノキなどが混生しています。ここではシカは生息していないとされている通り、シカの痕跡や被害木は確認されませんでした。林内や林縁にはアオキやハナйкаダなどシカの嗜好性植物が優占し、林床植生は極めて豊かである印象でした。一方、現在は通常苗の植林が行われているようですが、植栽密度は比較的低いことが外観から分かります（写真2）。シカがほとんど生息しないため、食害対策をしなくて良いのは羨ましいものです。

保護林の次に鰐塚山の植生も観察しました。中学1年生の冬休みに、友達数名と登って以来です。自宅から自転車で18km、登山道6kmを地図も持たずによく登ったものです。ここで見つけた奇妙な生物を調べたことで、図書館通いが始まりました。それはヤッコソウでした。冬に出現するヤッコソ

ウの痕跡が見つかることを期待しましたが、太い木のほとんどはシラカシとアカガシで、この植物が寄生するスダジイやコジイの大径木は見当たりませんでした。



写真2. 現在の飢肥林業地の外観

翌日訪れた霧島山ではシカの影響が認められました。現在でこそ、南那珂山地と霧島山とは田畑や道路、市街地で分断されていますが、鰐塚山や飢肥林業地においてシカの個体数が極めて少ないことはとても不思議です。

## 霧島山の森林

霧島山は最も早く指定された国立公園のひとつで、20を超える多数の火山と火口湖で構成された山群です。最高峰は韓国岳（からくにだけ、標高1700m）ですが、山容の美しさから高千穂峰（たかちほのみね、標高1574m）が目立ち、あの焼酎のパッケージにデザインとして用いられています。

それぞれの火山では、最後に噴火してから経過した時間に応じて、遷移段階の異なる植生がみられます。

高千穂峰の西側の下部斜面では、中径のアカマツにミズナラやウリハダカエデが混生した若い森林がみられ、樹林限界を超えるとミヤマキリシマ、ネジキ、ノリウツギが優占します。5月下旬が見頃だというミヤマキリシマはちょうど咲き初めでした。

一方、韓国岳への、登山道として選んだ大浪池の周辺では、アカマツの大径木の周りにスダジイなどの常緑樹、ミズナラやウリハダカエデだけでなく、ヤマザクラ、ブナ、ホオノキ、ナナカマドなど数多くの温帯性樹木が混生します。倒木処理のために断幹されたアカマツ円板の年輪を数えると、200を超えていました。年輪の目は中心から詰まったままで、土壌が発達していなかったことを示しています。大浪池の外輪山では、ヤマツツジやミヤマキリシマに加え、アブラツツジ、キリシマミツバツツジなどのツツジ類が訪花昆虫の獲

得のために競演していました。韓国岳の南側斜面にもアカマツの大径木が森林を形作りますが、標高が上がるにつれて、常緑針葉樹のモミやハリモミに落葉広葉樹ブナが加わる針広混交林に移り変わっていきます。下部ではスズタケの枯死した稈が密生していますが、標高1400m付近から上では、葉を多数つけたスズタケの藪が現れます。さらに標高が上昇すると、スズタケは再び枯死した稈とともに小さな葉をつけた低い稈になります。これらのスズタケの状態は、私が三重大学演習林や大台ヶ原を初めて訪れた2000年頃にとっても良く似ています。その後、5年も経つと演習林のブナ林では急激にスズタケが消失しました。気候は異なりますが、今後の霧島山の植生変化が心配です。シカによる植生への影響の程度が、紀伊半島と九州南部で異なることは興味深いものです。



写真3. 霧島山系韓国岳南斜面の森林  
枝の太いブナとハリモミの混交林で下層のササの稈はシカの採食によって立ち枯れている

## おわりに

ニホンジカによる植生への影響が太平洋側で著しいことは全国的な問題だと思っていましたが、三重県をはじめとする紀伊半島は、伊豆半島と並んで全国的にみても極めて激しく影響を受けている地域ようです。一方、四国や九州の太平洋側では、植生がシカの影響を受けているのは内陸部に限られており、沿岸部での影響は少ないようです。近年は捕獲によって全国的にシカの個体数が減少していると推定されていますが、紀伊半島でのシカの影響が弱まっているようには感じられません。植生調査や実生定着の研究は、残念ながらまだ始められそうにありません。

## 参考文献

- ・日本森林学会編（2024）図説日本の森林。朝倉出版
- ・梶光一・飯島勇人（2017）日本のシカー増えすぎた個体群の科学と管理。東京大学出版会

## スギ大径材から製材された板材について

林業研究所 中山 伸吾

全国的にスギ・ヒノキ人工林の高齢林化が進んでおり、原木市場には末口直径36cm以上の大径材が出回るようになりました。しかし、大径材は木取りや乾燥の難しさなどから、一般住宅向けの構造用柱材や梁桁材への利用は進んでいません。

そこで、スギ大径材から杣挽きによって得られる板材について、木取り位置の違いによって得られる板材の枚数や品質、強度を調査し、一般住宅向けの化粧板や並板、ラミナなどとして効率的な利用方法について検討しました。

### ●はじめに

スギ大径材から板材を製材した場合、木取りによっては従来の中目丸太（末口径18～28cm）より幅広で、心材率の高い板材が多く得られることになります。しかし、立木の段階で適切な時期に適切な施業がなされていない場合、製材後に大きな節やくさがみられる低品質の板材が出現する可能性が高くなります。低品質な材はあらわしで利用することができませんが、集成材やCLTなどのラミナとして利用することにより、有効活用できると考えられます。

大径材から杣挽きによって製材された板材は、木取りした部位によって品質や強度などが大きく異なるため、木取り位置に応じて用途選別することが有効利用につながります。そこで、スギ大径材から得られた板材の品質や強度を明確にし、スギ大径材の利用促進につなげるための研究に取り組んでいます。

### ●試験材と調査方法

末口直径約38～43cmの良質なスギ元玉10本より、杣挽きにて製材された板材の調査を行いました。得られた幅185mm、厚さ35mmの板材120枚は、外周部（図-1：①②③⑥）、中心部（図-1：⑤⑧）、中間部（図-1：④⑦）の各40枚ずつに仕分けしました。

節が少なく乾きやすい外周部はあらわしで使用する役物の化粧板として、節が多く乾きにくい中心部は並板として利用することを想定し、外周部の40枚は78日間（平均気温：17.8℃、平均湿度：57%）室内で棧積みし、天然乾燥を行いました。

一方、中心部の40枚は乾球温度70～80℃（表-1）に設定した蒸気式乾燥機で、延べ132時間の中温乾燥を行いました。

調査は中心部板材と外周部板材ともに、乾燥による収縮や含水率変化、割れ、材色変化、曲げ強度について行いました。

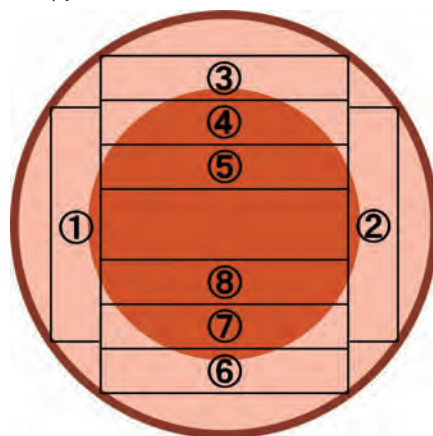


図-1 杣挽きによる板材製材の木取り  
（①②⑤⑧の部分については、可能な場合複数枚製材を行った）

### ●乾燥による収縮や含水率変化

外周部板材の天然乾燥前の、ハンディ式高周波木材水分計による含水率は平均78%でした。そして、32日後には含水率は平均40%となり、幅方向に平均0.8%、厚さ方向に平均0.9%収縮しており、62日後には含水率は平均19%まで低下し、幅方向に平均1.9%、厚さ方向に平均1.5%収縮しました。

その後、幅165mm、厚さ30mm、長さ4100mmに仕上げ製材を行い、乾燥開始から78日後に調査したところ、含水率は平均16%となり、JASによる含水率の基準（SD20）をクリアしました（図-2）

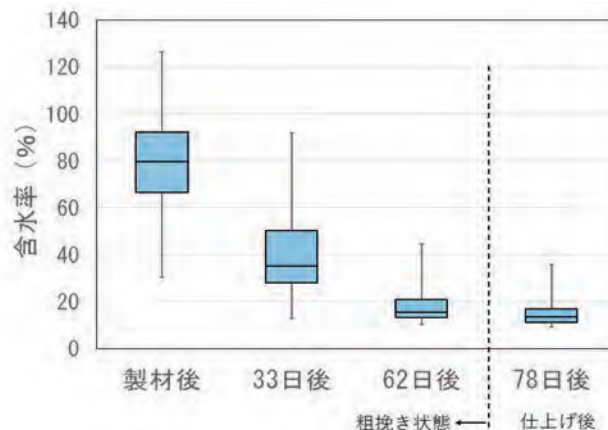


図-2 外周部板材の天然乾燥による含水率変化

一方、中心部板材の人工乾燥前の含水率は平均93%と外周部板材より高い状態でしたが、表-1に示す乾燥スケジュールで132時間の中温乾燥を行った後は幅方向に平均2.5%、厚さ方向に平均3.1%収縮し、含水率は平均14%まで低下しました。仕上げ製材後の含水率が平均15%となったことで、中心部板材でも人工乾燥を施すことにより、短期間でJASの含水率15%以下（SD15）を満たす製品まで仕上がりました。

表-1 中心部板材の乾燥スケジュール

|   | 乾球温度<br>(°C) | 湿球温度<br>(°C) | 乾燥時間<br>(時間) |      |
|---|--------------|--------------|--------------|------|
| ① | 85           | 85           | 8            | 蒸煮処理 |
| ② | 70           | 67           | 8            |      |
| ③ | 71           | 67           | 16           |      |
| ④ | 73           | 67           | 16           |      |
| ⑤ | 75           | 67           | 16           |      |
| ⑥ | 77           | 68           | 16           |      |
| ⑦ | 79           | 68           | 24           |      |
| ⑧ | 80           | 68           | 20           |      |
| ⑨ | 80           | 75           | 8            | 調湿処理 |

### ●乾燥に伴う表面割れと材色変化

化粧板としての利用を想定した外周部板材は、見た目が重要視されるため、節の有無や乾燥による表面割れや材色変化が少ないことが要求されます。

今回の天然乾燥前の外周部板材については、無節の板材は40枚中26枚あり、割れについては木口割れが発生していた板材もありましたが、JAS造作用製材の上小節の割れ基準である材長10%以下を満たしていました。

天然乾燥による表面割れを観察すると、乾燥前に木口割れが発生していた板材の、33日後の調査では、木口割れの拡大や新たな材面割れが発生し、割れの総延長は材長の23%に、62日後では材長の43%まで伸長したものがあり、仕上げ製材でも除去することができませんでした。

通常、木材の乾燥は外気と触れ合う材表面の水分から抜けていくため、まずは表面が収縮しようとするのに対し、まだ乾燥が進んでいない内部が収縮しないため、材表面に生じた引張力に抵抗し切れず割れが生じます。特に、木口面は水分蒸発が他材面よりも速いため、天然乾燥により化粧板を乾燥する場合は割れ止め剤を塗るなどの処理を施した方が良いといえます。

材色変化については、分光色差計を用いて同一カ

所の材色の経時変化を調査したところ、62日後でも粗挽き状態の材色に大きな変化はなく、最終的にブレーナーかけによって材面を平滑化したことで、光の反射率が増加し、明るさが向上しました。

一方、中心部板材については、人工乾燥前の板材には無節の材はなく、材長の10%を超える割れを持つ板材は6枚ありましたが、乾燥に伴う収縮により3枚まで減少し、仕上げ製材後では全ての板材が材長の10%以内の割れに収まりました。また、材色については乾燥前と比べて黄色味が薄れ青味が強くなりましたが、元の明度が低いため並材としての利用には問題ない程度でした。

### ●乾燥による板材の曲げ強度の変化

並板としての利用を想定したラミナとして利用する場合、JASによる機械等級区分が必要です。そこで、各調査時において曲げ強度と密接な関係のある動的ヤング率を打撃法により計測し、乾燥によるヤング率の変化を調査しました。

乾燥によるヤング率の変化を、外周部板材の結果からみると、乾燥が進むにつれヤング率区分の高い板材の出現割合が増加し、平均ヤング率も8.1GPaから8.7GPaに向上したことから、乾燥が進むにつれ板材のヤング率が向上することがわかりました。

また、中心部板材では乾燥後に平均ヤング率が7.7GPaから8.4GPaに向上しており、実際に板材に荷重をかけて行う曲げ強度試験より測定した静的ヤング率と比較しても、大きな違いは見られませんでした（表-2）。

表-2 中心部板材のヤング率区分ごとの出現割合

|                 | 乾燥前<br>(%) | 乾燥後<br>(%) | 製材後<br>(%) | 静的ヤング率<br>(%) |
|-----------------|------------|------------|------------|---------------|
| 5-7 GPa         | 27.5       | 15.0       | 17.5       | 15.0          |
| 7-9 GPa         | 47.5       | 50.0       | 52.5       | 47.5          |
| 9-11 GPa        | 25.0       | 35.0       | 30.0       | 2.5           |
| 11-13 GPa       | 0.0        | 0.0        | 0.0        | 7.5           |
| 平均ヤング率<br>(GPa) | 7.7        | 8.4        | 8.4        | 8.8           |

今回の結果より、スギ大径材から単純な粹挽きにより製材された板材は、外周部は室内で2～3か月天然乾燥、中心部は乾燥機で132時間中温乾燥することで、JASの含水率基準を満たす乾燥材に仕上げる事が可能なことが示唆されました。



## 三重の林業統計数字を読み解くシリーズ①

### 特用林産物生産の動向について ～きのこ栽培は、林家から事業体へ!～

三重県林業技術普及協会 顧問 佐々木 太

#### 1 はじめに

数字はその時その時の時代を表す一つのツールだと思います。

私は数字が好きで数字にこだわりがあり、1964年（昭和39年）県職員になって以来、色々な林業関係統計数字を整理保存しており、高齢になった今、外出が少なくなり時間がたっぷりあることから？改めて少し整理して昭和～平成～令和と約60年の変遷を林業数字でたどってみたいと思い、少しでも何らかのお役に立てればと「三重の林業」に投稿する次第です。（昭和39年、林業基本法の制定、東京オリンピック開催、東海道新幹線開通、県庁舎・林業技術普及センター落成の年を起点に、令和の時代までいろいろな林業数字を読み解きたいと思います。）

#### 2 1990年前後はヒラタケ生産全国1位、生シイタケ生産全国6位など全国有数のきのこ生産県

かつて林家等が副収入を得られる複合経営として、シイタケをはじめとするきのこの等の特用林産物の栽培が盛んであり、1975（昭和50）年以降シイタケ、ヒラタケを中心に伸びてきました。

ヒラタケは1991（平成3）年2,207tで全国1位、生シイタケは1988（昭和63）年3,073tで全国6位など全国上位の生産を誇っていましたが、1990年以降生産は減少に転じました。また、1990年代に入り生シイタケの菌床栽培が始まり、今やきのこ栽培は林家による林地での原木栽培が少なくなり、事業体等による菌床栽培の工場生産が主流となっています。

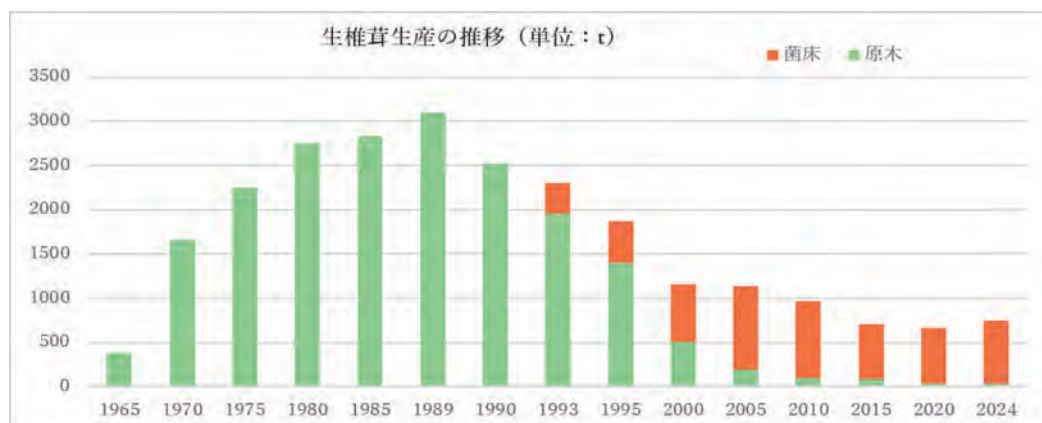
#### 3 シイタケ生産は菌床栽培が主流

シイタケ生産の動向について見てみると、乾シイタケは1940（昭和15）年に561t生産されており、1965（昭和40）年92tから1981（昭和56）年271tまで増加傾向を示しましたが、その後減少に転じ、1997（平成9）年に100tを割り、2024年には14tになっています。菌床栽培が2011（平成23）年から始まり、2024年には菌床栽培の割合が77%を占めています。

一方、生シイタケの生産は、1965（昭和40）年の385tから年々増加を続け、1989（平成元）年3,101tをピークに減少傾向に入りましたが、1990年前後は全国有数の生産県でありました。しかし2024年は746tとピーク時の1/4まで低下しています。菌床栽培は、鈴鹿市が県内の44%、いなべ市が28%を占めています。また、菌床栽培は1993（平成5）年は345tと全体の15%でありましたが、2024年には95%を占めるに至っています。

#### 4 1990年代に全国1位を誇っていたヒラタケ生産も今はピーク時の4%

ヒラタケ生産は、統計数字では1974（昭和49）年の507tから始まり年々増加を続け、1989（平成元）年に2,465tとピークを迎え、その後緩やかに減少に転じますが、1988（昭和63）年全国2位、1991（平成3）年、1996（平成8）年全国1位など全国上位の生産を誇っていました。1998（平成10）年に1千tを割る890tと減少傾向が顕著になり、2024年には87tとピーク時の4%となりましたが、それでも全国7位と全国上位で健闘しています。



## 5 ナメコ等は少数の生産者で県内生産のほとんどを占める

ナメコ生産は、1975（昭和50）年の5tから1986（昭和61）年103t、1990（平成2）年572t、1995（平成7）年806tと順調に増加し、その後はほぼ800t台で推移し、2023年に初めて1,000tを超え、2024年1,048tと顕著な生産を続けています。なお、紀宝町の大手生産者2者で1,048tと2024年の県内生産の99.8%を占めています。

ブナシメジ生産は、1992（平成4）年622t、1995（平成7）年627tと増加し、1997（平成9）年の803tをピークに減少傾向になり、2011（平成23）年に204tと最少を記録し、その後は300t代で推移していましたが、2020年280tで統計数字から消えています。しかし、多気町で操業した大型生産工場で新たにブナシメジの大量生産が稼働しています。

エリンギ生産は、1999（平成11）年68t、2000（平成12）年101tと増加し、2005（平成17）年640tをピークに2015（平成27）年454t、2024年280tと減少傾向にあります。尾鷲市の事業者が2024年に261tを生産し、県内生産の93%を占めています。

## 6 消えゆくきのこがある一方、新たに大量生産されるマイタケ等

キノコの王様であるマツタケは、1955（昭和30）年には伊賀地方を中心に188t収穫されましたが、1965（昭和40）年38t、1970～1990年は10t強で推移し、1993（平成5）年に6tと一桁となり、その後減少の一途をたどり2008（平成20）年0.3tを最後に統計数字から姿を消しました。

しゃきとした食感で一時人気があったハタケシメジは、1999年（平成11年）南勢地域の森林組合を中心に生産が始まり、2005（平成17）年109tの生産

をピークに減少を続け、現在は松阪地域で5t程度生産されていますが統計数字からは姿を消しています。

一方、マイタケ生産は、統計数字上では2011年（平成23）年から2015（平成27）年にかけて0.5t生産されたほか県内では生産が見られませんでした。2024年に多気町で大型生産工場が稼働し、年間生産量2,925tで県内生産の100%を占めるほか、尾鷲市の事業者によるエリンギ、多気町の事業者によるブナシメジなど、新たに大型工場による大量生産が稼働しています。

## 7 近年タケノコ生産は堅調！木炭生産は減少止まらぬ！

タケノコ生産は、1975（昭和50）年から1985（昭和60）年の10年間は2千t強の生産で推移し、その後減少を続けますが、この20年間は年により豊凶があるものの300t～700tで推移しており、桑名市が県内有数の生産地となっています。

木炭生産は、1955（昭和30）年45,266tから1965（昭和40）年11,725tまで減少し、1967（昭和42）年には1万tを割り込み、その後も減少に歯止めがかからず2008（令和元）年の57tを最後に統計数字から消えています。なお、黒炭は5t程度で推移しています。

## 8 おわりに

最近のきのこ情勢について松阪飯南森林組合の西井さんにご指導をいただき、誌面をお借りしお礼申し上げます。

なお、生産量については、あくまで統計上に整理された数字であり、これに基づき記述しているので、空欄になっている年でも生産があるかもしれませんし、数字に誤差があるかもしれませんが、あしからず！

キノコ等特用林産物の生産推移（単位 t）

| 西暦   | 乾椎茸 | 生椎茸   | なめこ   | ひらたけ  | ぶなしめじ | はたけしめじ | えのきたけ | えりんぎ | まつたけ | たけのこ  | 木炭     |
|------|-----|-------|-------|-------|-------|--------|-------|------|------|-------|--------|
| 1965 | 92  | 385   |       |       |       |        |       |      | 38   | 163   | 11,725 |
| 1970 | 148 | 1,659 |       |       |       |        | 17    |      | 19   | 363   | 2,085  |
| 1975 | 189 | 2,246 | 5     | 846   |       |        | 36    |      | 12   | 2,050 | 608    |
| 1980 | 257 | 2,758 | 99    | 1,435 |       |        | 74    |      | 15   | 2,109 | 492    |
| 1985 | 185 | 2,834 | 239   | 2,104 |       |        | 167   |      | 14   | 2,412 | 560    |
| 1990 | 179 | 2,521 | 572   | 2,274 |       |        | 94    |      | 8    | 1,944 | 428    |
| 1995 | 120 | 1,867 | 806   | 1,611 | 627   |        | 124   |      | 2    | 813   | 686    |
| 2000 | 34  | 1,152 | 814   | 561   | 353   | 32     | 127   |      | 2    | 709   | 195    |
| 2005 | 32  | 1,139 | 858   | 269   | 420   | 109    | 65    |      | 0.5  | 478   | 227    |
| 2010 | 10  | 971   | 859   | 277   | 277   | 51     | 46    |      |      | 306   | 110    |
| 2015 | 20  | 710   | 847   | 105   | 505   | 24     | 50    | 454  |      | 379   | 34     |
| 2020 | 16  | 669   | 863   | 91    |       | 5      |       | 313  |      | 519   |        |
| 2024 | 14  | 746   | 1,048 | 87    |       |        |       | 280  |      | 522   |        |

| 地域 | 区分 | 樹種  | 長さ | 径           | 品質 | 平均価格   | 高値      | 前回比 | 市況                                                                                                                                                    |
|----|----|-----|----|-------------|----|--------|---------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 松阪 | 素材 | スギ  | 3m | 16～18cm     | 並  | 13,000 | 14,000  | ↓   | （供給動向、価格概況、先行き等）<br><b>【素材】</b><br>・雨や台風の影響もあり、出材量は少なめ。<br>・相場は、5月と変わらず。<br>・これからの出材量も減る見込み。<br><b>【製品】</b><br>・来客も少なく、これまで順調に売れていた<br>枠材も売りづらくなっている。 |
|    |    |     | 4m | 20～22cm     | 並  | 13,000 | 14,000  | →   |                                                                                                                                                       |
|    |    |     | 4m | 24～28cm     | 並  | 13,000 | 14,000  | →   |                                                                                                                                                       |
|    |    |     | 6m | 18～20cm     | 並  | 16,000 | 18,000  | ↓   |                                                                                                                                                       |
|    |    | ヒノキ | 3m | 16～18cm     | 並  | 18,000 | 20,000  | ↓   |                                                                                                                                                       |
|    |    |     | 4m | 20～22cm     | 並  | 18,000 | 20,000  | ↓   |                                                                                                                                                       |
|    |    |     | 4m | 24cm以上      | 並  | 18,000 | 20,000  | ↓   |                                                                                                                                                       |
|    |    |     | 6m | 18～20cm     | 並  | 25,000 | 28,000  | ↓   |                                                                                                                                                       |
|    | 製品 | スギ  | 3m | 10.5×10.5cm | 特一 | 80,000 | 90,000  | →   |                                                                                                                                                       |
|    |    | ヒノキ | 3m | 10.5×10.5cm | 特一 | 90,000 | 100,000 | →   |                                                                                                                                                       |

※価格は消費税抜きとし単位は円／m<sup>3</sup>。積込料、取扱手数料は含まない。製品はいずれもKD材。 前回比は4月の市況との比較。

## 三重の林業(令和8年5月号)を読んで

### ～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～

**(令和8年度 森林・林業関係主要事業の概要)**

- ・新しく始まった『みえ「森業」チャレンジ促進事業』を詳しく紹介する記事も読んでみたい。

**(ソフトバンク株式会社と連携した三重の森林づくりについて)**

- ・頂いたお金を有効活用し、食害を受けた植林地が早期に復旧されることを期待します。
- ・今後も協力、連携して三重の森林づくりの推進をお願いします。

**(林業普及活動・研究等成果報告会を開催しました)**

- ・林業は変化していくと感じた。柔軟に受け入れる姿勢が今後必要になってくと思う。
- ・気になる内容が沢山あったので、「三重の林業」で紹介していただけたらうれしい。

**(森林経営管理制度、森林環境譲与税の新たな動向等について)**

- ・「市町取組事例集2025」をQRコードから閲覧することができた。参考にしたいと思いました。
- ・少しずつでも境界が明確化され森林整備が進んでいることに関係者のご尽力に敬意を表します。

**(みえ森林・林業アカデミー入講式を開催しました)**

- ・アカデミーで培った知識が今後の三重の森林・林業の振興につながることを期待します。

**(森林に惹かれて、この道へ)**

- ・Instagramでアオリイカの産卵床設置の動画を拝見しました。これからも楽しみにしています。
- ・日々五感をとぎすましながら、仕事を通じて活力が生命体に宿る、そんな力強い印象を受ける一文でした。
- ・難しい仕事にも積極的にチャレンジし、仕事を通じて多くのことを学んでいって欲しい。

**(有限会社森下林業代表 森下智彦さん)**

- ・大変魅力のある林業事業体と感じます。
- ・「安全な林業の構築」について、代表の方がこのような考えを持っていることは大切だと思います。

**(三重大学 第36回中小規模住宅向け立体トラス型床工法)**

- ・専門用語の解説を載せていただけると理解が深まると感じました。

**(「ハナビラタケ空調栽培マニュアル」を改訂しました)**

- ・改訂されたマニュアルを機に、生産量が増え、より広く知られる存在となったら良いと思います。

※いただいた感想、コメントを事務局で集約し掲載しています。



森林はさまざまな公益的機能を持っています。

## 三重県森林協会は、豊かで災害に強い森林づくりを目指して活動しています。

治山・林道等の森林土木関係の標識板等の注文にも応じています。  
お気軽にご相談ください。

一般社団法人 **三重県森林協会**

TEL 059-228-0924    FAX 059-228-3220



台風・山火事などの災害による森林の損害に備え、森林保険にご加入ください














## 「加入してよかった！」

お問合せ・お申込みは、お近くの森林組合または三重県森林組合連合会まで

## 守ろう地球と地域の環境 一緑と水を育む水源林づくりー

私たちは森林整備センターによる  
水源林造成事業を進めています。

### 三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104(林業会館内)  
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

森林づくりの(わ)を広め、健全な森を次の世代へ



## 植える 緑化から 使う 緑化へ

みんなの思いを、緑の募金でつなぎましょう

### 公益社団法人 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地  
TEL (059) 224-9100 FAX (059) 224-9118

緑の募金ー三重緑化基金

## 林業用苗木の生産・販売

ー緑資源は優良苗木でー

### 三重県林業種苗協同組合連合会

会長 辻 和彦

津市桜橋1丁目104 林業会館内  
TEL 059-228-7387



地元で育まれた品質の確かな

「三重の木」認証材で家を建てよう!

「三重の木」利用推進協議会

TEL.059-228-4715 <http://www.mienoki.net/>

### 三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 落合賢治

津市桜橋1丁目104 林業会館内  
TEL 059-228-4715

## みえ森づくりサポートセンター

「みえ森づくりサポートセンター」は、みなさんの森林教育、  
森づくり活動の支援を行う施設です。ご活用ください。

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内  
TEL 059-261-1223 FAX 059-261-4153  
mail miemori@zc.ztv.ne.jp web <http://www.zb.ztv.ne.jp/miemorisc>  
(三重県が公益社団法人 三重県緑化推進協会に委託し運営しています。)



「林業就業希望者の相談対応」、「林業人材育成研修」、「林業経営体支援」など  
林業に関する総合的なサポートを行います!



林業を支える人々を応援します、  
森林を未来へ繋げるために



公益社団法人  
みえ林業総合支援機構

津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所交流館内  
Tel : 059-261-1398 HP : <http://miekikou.jp>

インテリアからエクステリア等 **木製品** **伐採 チェンソー・草刈機**

**お任せください!**

**中勢森林組合** **見積無料!!** 三重県津市白山町南家城 915-1  
TEL 059-262-3020 <http://www.chusei-forest.jp> **STIHL Shop**  
TEL 059-264-1070

森林・木材販売に関することならなんでもご相談下さい!

間伐作業 高枝切作業 菌床きのこ生産 液体ガラス改質木材 家具製作販売 足場・支柱 製造販売

**JForest 松阪飯南森林組合**  
【本所】〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見 5725-3  
TEL.0598-32-3516 FAX.0598-32-3545  
◆各支所所在地についてはHPをご覧ください <https://mi-sinrin.or.jp>

三重で木のこと

**OKO 株式会社 オオコーチ**

三重のサステナブル経営アワード受賞 みえの木建築コンクール優秀賞受賞 JAS 認証工場 三重の木認証工場

三重県松阪市大黒田町 472 TEL : 0598-26-1551 FAX : 0598-21-2676 E-mail : [info@ookochi.co.jp](mailto:info@ookochi.co.jp) HP : <https://www.ookochi.co.jp>

熊野の森から、やさしさをあなたへ

**株式会社 nojimoku**  
〒519-4324 三重県熊野市井戸町 4185-18  
TEL : 0597-85-2485 FAX : 0597-85-4056  
HP : <http://nojimoku.jp>

のじもくま

航空レーザ計測技術を活用した ICT 林業を推進

<http://www.ajiko.co.jp/>

**アジア航測株式会社**  
三重営業所  
三重県四日市市安島一丁目5番10号  
KOSCO四日市西浦ビル  
TEL : 059-342-0501 FAX : 059-342-0503  
森林環境課・森林情報課  
神奈川県川崎市麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル

持続的な林業経営を目指して

**三重県林業経営者協会**

会長 速水 亨  
度会郡大紀町滝原870-34 ひのき家内

注文住宅 太陽光 × 制震装置 × デザイン × コストパフォーマンス

完全自由設計の家づくり

**oh!! one house.** 0120-02-1936  
[営業時間] 9:00 ~ 18:00 [定休日] 水曜日

HP Instagram YouTube